

# 平成28年度小松島市事務事業評価シート

<b>■事業の位置づけ（基本事項）</b>				<b>整理番号</b>	7 - 1 - 6
<b>事務事業名</b>	スクールバス運行委託料			<b>担当課係</b>	学校課
<b>総合計画上の位置付け</b>	<b>大項目</b>	4. 「人が輝く」		<b>記入担当者</b>	
	<b>中項目</b>	③生涯を通して学べる環境づくり		<b>内線等</b>	
	<b>小項目</b>	2. 学校教育の充実		<b>E-mail</b>	
<b>事業の実施主体</b>	市（委託・補助事業含む）			<b>事業区分</b>	経常事業
<b>事業予算費目</b>	<b>款</b>	10 教育費	<b>項</b>	1 教育総務費	
	<b>目</b>	3 教育指導費	<b>事業</b>	9 スクールバス運行委託料	
<b>開始年度</b>	平成16	<b>年度</b>	根拠法令・要綱等 小松島市安全なまちづくりに関する条例、小松島市契約規則		

<b>■事務事業の概要（実施内容）</b>	
<b>事業の対象</b>	（誰の、何のために事業を実施するのか） 横須・金磯・赤石地区より南小松島小学校へ通学する1・2年生のうち、スクールバス通学希望者
<b>事業の目的</b> （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 遠距離通学となる児童の安全な通学手段を確保する。
<b>事業の内容</b> （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 貸切バスを取り扱う事業者に運行業務を委託している。また、利用登録料（年間）として児童一人あたり20,000円（片道利用の場合は10,000円）を徴収している。児童はスクールバスに乗車する際、利用許可証を乗務員に提示してから乗車している。
<b>事業の背景</b> （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 遠距離通学となる南小松島小学校児童への支援として、受益者負担額を設定し、平成16年9月1日より事業を開始した。平成27年3月末をもって市営バス事業が廃止されたことに伴い、平成27年度からは民間事業者に運行を委託している。

## ■事務事業の業績・推移（目標・実績）

		指標名			指標の説明			指標化できない成果
成果指標	単位	H27	H28	H29	H30	目標年度 目標値		
		スクールバス利用児童						
	人	目標	40	39				
		実績	40	39				
達成度		100.0%	100.0%					

  

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H27	H28	H29	H30	指標の説明
	計画	実績	円					
	スクールバス利用登録料	計画	560,000	575,000	503,000			
		実績	567,000	506,200				
		計画						
		実績						
		計画						
		実績						

## ■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		27年度決算	28年度決算	28年度予算	29年度予算		
全体コスト（円）	関連事業費	A 直接事業費	6,955,200	6,674,400	7,171,000	10,541,000	
		財源内訳	国県支出金				
			地方債				
			利用者負担	567,000	506,200		
			一般財源	6,388,200	6,168,200		
	B 人件費 ①×②	721,578	737,668				
	職員平均人件費①	7,215,779	7,376,684				
	従事した割合②/人	0.10	0.10				
	A + B	7,676,778	7,412,068				
	単位コスト	活動指標の説明	スクールバス利用児童 (40人)	スクールバス利用児童 (39人)		<b>備考</b>	
活動指標1単位当たりコスト		191,919	190,053		平成27年4月1日現在 人口39,866人		
市民一人あたりのコスト		193	188		平成28年4月1日現在 人口39,358人		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 国においては、高速ツアーバス事故を踏まえて貸切バスの構造的な問題の改善に取り組んでおり、その一環として、平成26年4月1日より新たな貸切バスの運賃・料金制度を実施している。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 児童の保護者、学校現場からも大変好評をいただいております。今後も児童の安全な通学手段を確保するため、事業の継続が望まれている。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	○ ① 必要性が高い ② どちらかといえば必要性がある ③ 必要性が低い ④ 必要性がない	南小松島小学校付近の交通量が非常に多いうえ、児童の送迎をする保護者等の車両が校内への出入りと重なるため、児童の安全・安心な通学手段としてスクールバスの運行は有益である。
妥当性 (市で行わなければならないか)	○ ① 市が行わないといけない ② どちらかといえば市で実施 ③ 必然性が低い ④ 必然性がない	横須・金磯・赤石地区からの遠距離通学となり、路線バスや徒歩での通学が困難な1・2年生を対象として事業を実施しており、妥当である。
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	○ ① 効率的である ② どちらかといえば効率的 ③ どちらかといえば非効率的 ④ 非効率的	平成27年3月末をもって市営バス事業が廃止されたことに伴い、平成27年度からは民間事業者に運行を委託しているため、事業費は増額傾向であるが、物品等指名競争入札登録業者により入札を実施し、契約の相手方を決定するなど、競争性の担保・コスト削減にも配慮しながら適正・円滑に実施している。
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	○ ① 緊急性が高い ② 比較的緊急性がある ③ 緊急性が低い ④ 緊急性はない	児童の安全・安心な通学手段を確保することは極めて重要であり、本事業の緊急性は高い。
成果 (目的の達成状況)	○ ① 成果が上がっている ② どちらかといえば上がっている ③ どちらかといえば上がっていない ④ 成果は上がっていない	横須・金磯・赤石地区からの遠距離通学となる児童が、登下校時における交通事故や事件に遭遇することなく、安全・安心な通学手段を確保している。
今後の課題	今後も、家庭・学校・地域・関係機関との協力体制を密にし、児童の安全・安心な通学手段を確保すると共に、スクールバス運行業務の適正・円滑な運用を図る。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	1 拡 充 す る	80点以上	評価点による判定	判定に至った理由	事業費は増額傾向ではあるものの、児童の安全・安心な通学手段を確保するうえで、本事業の継続は必要不可欠である。	
	2 現状のまま継続する	60～79点				
	3 改善・効率化し継続	40～59点	評価点			93
	4 終期設定し終了	20～39点	1			
	5 完了・休止・廃止	19点以下				

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】
----------------------------------

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	1 拡 充 す る	判定説明	小学校低学年児童にとって、横須・金磯・赤石地区からの遠距離通学は体面において負担が大きいだけでなく、安全・安心な通学手段を確保することは極めて重要である。また、保護者・学校現場からも強い要望があるため、今後も本事業の適正・円滑な運用を図っていく。
	2 現状のまま継続する		
	3 改善・効率化し継続		
	4 終期設定し終了		
	5 完了・休止・廃止		